

アーチェリーセンターで開かれた。クリニックは、福井国

高校の選手ら36人が参加し、杉浦さんから3時間半みつ

い、参加者が主審、副審、線審を交代で担当した。参加者

を受けながら、バレーボール

小学生バレーボールの全国大

会が福井で開催される。審判

『坂井市の丸岡運動公園「古城ドーム」』で

夢に向かって

若い世代に競技普及

うえるような環境をつくりたい」と夢を描く。

(本田優子)

「長く続けられる競技に出合い、幸せに思う」。世界では米国を中心に700万人もの愛好家がいるといわれるディスクゴルフ。国内ではまだマイナーな競技だが、競技の裾野を広げようと奮闘している。坂井市役所職員として愛好家から絶賛される市内のコースの魅力をアピールしつつ、自分自身も腕を磨き、「いつか外国の愛好家にも来ても

のボールの代わりにフライングディスクを使って、バケット型の専用ゴールに、何投で入れることができるかを競うスポーツ。

競技に出会ったのは市の地域振興課にいた2010年の夏だった。三国町安島の市海浜自然公園は、豊かな松林が広がり、多くの人が訪れる憩いの場だった。しかし、松枯れの選手。「ディスクが遠くまで飛んでいく浮遊感が魅力。現役時代に感じていたスター直前の緊張感も味わえ、年をとっても取り組んで

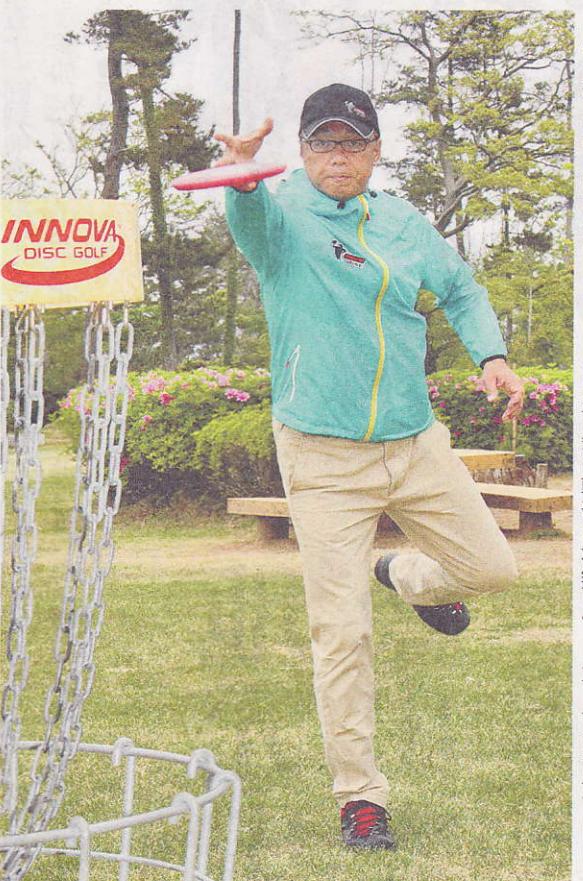
れの被害が深刻になり倒れたり切られたりする木が多くなって公園が様変わりしたことから、対策と新たな魅力づくりが急務となっていた。

スに適しているのでは」とスに適しているのでは」とヒントで、日本フライングディスク協会の幹部に視察して

ホールを設定し、11年4月にオープンした。

18年に本県で開催される「しあわせ元気国体」では坂井市開催のデモンストレーション競技にもなっている。課題は、若い世代に競技の魅力を知つてもらうことだ。そのためには子ども会行事を通じて、柔らかい素材のディスクを使ったドッジボール形式の「ドッジビー」の普及にも努めている。

中田誠一郎さん(50)=坂井市役所職員
■市海浜自然公園
「ディスクゴルフコースの『生みの親』



プロ登録をし、ディスクゴルフ競技の技術向上と普及に務める中田誠一郎さん=坂井市海浜自然公園で

以来、自身も腕を磨いて、13年日本オープンのアマアドバンスで3位に入賞。今季からラブロ登録し、今月30日に開かれる「第4回福井オープン」では、プロとして競技に参加する予定だ。

18年に本県で開催される「しあわせ元気国体」では坂井市開催のデモンストレーション競技にもなっている。課題は、若い世代に競技の魅力を知つてもらうことだ。そのためには子ども会行事を通じて、柔らかい素材のディスクを使ったドッジボール形式の「ドッジビー」の普及にも努めている。

学生時代は陸上競技の短距離の選手。「ディスクが遠くまで飛んでいく浮遊感が魅力。現役時代に感じていたスター直前の緊張感も味わえ、年をとっても取り組んでいる」とアピールする。